

舞鶴から希望の京都をつくろう！ ～地域力の創造と市民の幸せを目指す～

京都府議会議員

# 池田まさよし 通信

発行：池田まさよし事務所

【第35号】

〒624-0853 舞鶴市南田辺71番地1 TEL:0773-77-1722 FAX:0773-77-1723 ホームページ <http://www.ikedakai.net>



京都府議会議員  
池田正義

## ご挨拶

師走を迎え令和4年もあとわずかとなりました。

12月補正予算では、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行による発熱患者の増加に伴う医療逼迫を招くことが懸念される中、休日診療・検査等を行う医療機関や薬局への支援など、外来医療の逼迫を回避しつつ、高齢者等の重症化リスクのある方に適切に医療を提供できる体制を整備するものであります。

また、新型コロナウイルス感染症から府民の安心・安全を守るため、切れ目のない医療や支援の提供に必要な体制を確保するとともに、来年4月に予定されている府議会議員選挙の執行に係る経費などであります。

さらに、国において、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」の補正予算が成立をし、この経済対策の効果を早期に実現させるため、府民の安心・安全対策に取り組むほか、全国旅行支援を実施するために必要な予算が追加計上されたものであります。

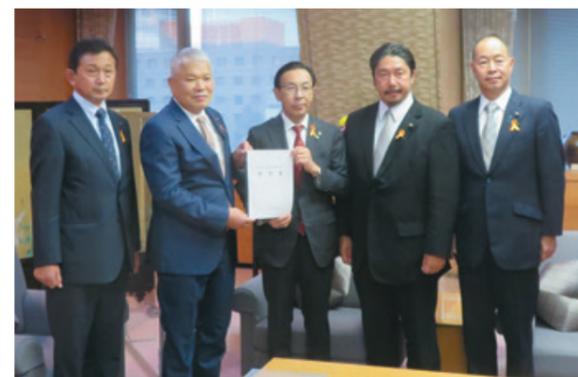
まもなく年末年始を迎えますが、うがい・手洗い・正しいマスクの着用など感染対策を行い、新しい年をご健康で迎えられるようお祈り申し上げます。

今後とも皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

## 令和4年度12月補正予算の概要

### 発熱患者増加時の外来医療逼迫回避、新型コロナウイルス感染症から府民の安心・安全を守る医療や支援の提供に必要な体制確保など総額462億1,900万円

- ◆ 発熱患者増加時の外来医療の逼迫回避と適切な医療提供体制の整備 .....21億円
- ◆ コロナ対応に万全を期すための医療提供体制の確保等 .....184億6,400万円
- ◆ 安心して出産・子育てができるよう妊婦や子育て家庭を支援 .....18億3,500万円  
妊娠、出産届出時に各5万円（計10万円相当）のクーポン・現金等を市町村から支給
- ◆ 幼稚園、保育園、特別支援学校等の送迎バスへの安全装置設置を支援 .....8,600万円
- ◆ 国土強靱化に資する道路整備や治水対策の推進 .....154億5,700万円
- ◆ コロナ禍で落ち込んだ府内観光の需要回復を促進 .....59億5,600万円
- ◆ 府議会議員選挙の執行経費 .....3億4,300万円
- ◆ 人事委員会勧告による職員の給与改定等 .....15億1,500万円



令和5年度知事への予算要望

## 9月定例会 一般質問に登壇（質問と答弁の概要）

### 1. 持続可能な京都府北部づくりについて

【質問】 京都府総合計画の改定に向けた中間案のうち、中丹地域振興計画では、地域の将来像として「コロナ禍によるテレワークや地方移住の広がりなどを踏まえ、『田舎暮らし』『まちなか暮らし』『二拠点居住』など、この地域の強みをさらに生かして、一人ひとりの事情と希望に応じた多様なライフスタイルが実現できる地域」「コロナ禍で再認識された家族や社会の繋がり的重要性を踏まえ、Uターン等により、若者がしっかり地域に定着し、子どもから高齢者まで住民が生き生きと暮らす、人にやさしい持続可能な地域」を目指す掲げられているが、人口が減少する中、持続可能な府北部を目指し、具体的にどのように取り組んでいくのか。

【西脇知事答弁】 北部地域の持続的な発展を図るためには、豊かな自然や良好な住環境、地域とのつながりなど、都市部にはない魅力を更に高めるとともに、地域間の連携を強化し、教育、医療、交通など都市機能の確保、多様で良質な雇用の場の確保、子育て、福祉などの生活環境の



9月定例会での一般質問の様子

充実、移住やUターン等による地域社会の新たな担い手の確保、などを図る必要があります。北部5市2町で設立した京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会と連携をし、教育、医療、交通など幅広い分野で、単独の市町では持つことが困難な、高次の都市機能の確保や生活関連機能の充実などを

めざした取組を進めてきました。

また、京都舞鶴港や京都縦貫自動車道などの基盤を最大限に生かし、産業の振興により雇用の場を確保するとともに、多様なライフスタイルが実現できる環境を生かし、移住者や関係人口の増加に取り組んできました。

こうした取組の結果、舞鶴市をはじめとする北部地域では、工業団地を中心に企業立地が進んでおり、移住についても、現行の総合計画を策定した令和元年度以降の3年間で、800人を超える方が移住されるなど、一定の成果があがってきています。

今月11日、京都全体の魅力を発信しながら、府内各地を訪れるきっかけづくりや、実際に地域で活動している方との交流などを目的に、「ALL KYOTO FES」を、大阪市内で開催したところ、約千人の方が来場され、北部地域への具体的な移住相談や交流希望もありました。

北部地域への関心の高さを地域の持続的な成長につなげるため、産業創造リーディングゾーンの形成やものづくり産業の振興などにより北部地域の産業振興の強化を図っていきます。

### 2. 多様な職業選択を可能とする高等学校の充実・強化について

【質問】 北部圏域には、職と結びつく専門性の高い人材の育成を行い、農業、漁業、工業、情報など、多様な職業選択を可能とする高等学校や舞鶴工業高等専門学校が存在している。職やものづくりを支えるのは地方都市であり、専門性の高い人材が地域で活躍することが持続可能な圏域づくりや地方分散型社会の構築に繋がるものと考えがどうか？

**【教育長答弁】** 府立高校では、職業学科・総合学科の改編やカリキュラムの見直しなどにより、社会の変化に対応した専門性の高い教育を行っています。また、専門性を備えた職業人育成のため、電気主任技術者第3種や日商簿記検定2級など、ハイレベルな資格の取得にも力を入れています。

また、これまでから地元企業でのインターンシップや企業実習により、必要な専門知識や技術の習得に努めるとともに、勤労観・職業観を育み、地元企業の良さを理解する取組を行っており、昨年度は、北部地域の府立高校の職業学科・総合学科卒業生のうち、就職した生徒の約6割が地元地域で就職をしています。

次に、今後の取組については、少子化に伴い生徒数が減少する中であっても、北部地域の府立高校の魅力をもっと高め、将来の地域を支える人材を育成するためには、今年3月に策定した「府立高校の在り方ビジョン」のとおり、地域や企業との連携の強化や、質の高い職業教育を推進します。このため、例年、企業説明会として実施している「高校生企業研究会」に加え、今年の中丹地域で3市合同による説明会「高校生JOB-EXPO」も初めて開催しています。

また、地域社会の課題や魅力に関わる探究的な学びを取り入れることも重要で、より一層地域への愛情を深め、主体的に地域社会と関わる人材育成を推進していきます。

さらに、昨年度、デジタル化に対応した産業教育を進めるため、例えば、府立工業高校で1000分の1ミリ単位の精度で加工が可能な精密旋盤機等を整備した他、府立高校に最先端の実習設備を導入し、一層専門性の高い教育を実現できる環境の充実を図っています。



高精度で測定しデジタル化できる  
三次元測定機

### 3. 北部地域医療体制の充実・強化について

**【質問】** 丹後医療圏等の府北部地域における医師確保と特定の診療科の不足への対応は、府政の大きな課題であり、これまでから府地域医療支援センターの設置によるオール京都体制での取組や府立与謝の海病院の府立医科大学の附属病院化による医師確保、府北部地域のニーズに相応しい人材の育成、医療提供体制の充実・強化が図られてきたが、全国平均と比べると医師確保等の格差があること等から、更なる取組が必要と考える。府北部地域の医療体制の充実強化の観点から、診療機能の集約化等を図り、中丹・丹後の府北部医療圏において高度医療を含めた安定的な医療体制の構築を目指すことが重要と考えるがどうか。

**【健康福祉部長答弁】** 北部地域における医師確保については、これまで京都府地域医療支援センターを設置するなど、様々な取組を実施してきた結果、人口10万人当たりの医師数は219.3人と、10年前の190人に比べて増加しているものの、全国平均を下回る状況です。

また、産科や小児科の医師が不足するなど診療科偏在もあり、ハイリスク分娩等の高度な医療を効率的に提供できる体制を構築していくことが求められています。

このため、令和元年度に策定した京都府医師確保計画においては、ハイリスク分娩や脳血管疾患、心血管疾患などの緊急性及び専門性の高い治療が求められるものについて、各病院間の機能分担と集約化を図り、二次医療圏にとらわれず、府内一円で医療体制を構築します。例えば、ハイリスク分娩については、府域全域を担う総合周産期母子医療センターを中心に、北部地域の中核病院である北部医療センターや舞鶴医療センターと主に通常分娩を担う医療機関が連携し、妊産婦の状態

を共有する「妊産婦モニタリングシステム」を今年度中に導入し、北部地域でもより安心・安全に分娩できる医療体制の整備を図っていきます。

さらに、脳血管疾患や心血管疾患に関しても、冠動脈バイパス手術などの高度な治療は、圏域を超え専門



舞鶴医療センター

医療や最先端の医療を提供できる病院で対応し、回復期におけるリハビリなどについては、住み慣れた地域の病院で対応できるようにするなど、切れ目のない医療体制の構築を目指します。

### 4. 造船技術等を生かしたものづくり産業の機能強化と新事業展開への支援について



ジャパン・マリンユナイテッド舞鶴事業所

**【質問】** 造船業は、海洋国家の日本において極めて重要な基幹産業であり、ジャパン・マリンユナイテッド株式会社舞鶴事業所の商船部門の撤退時には、本府と舞鶴市が一体となって、国に対し、造船業が衰退することのないよう、支援策の検討等を要望してきた。同社は、LNGやアンモニアといった低・脱炭素代替燃料を導入した船舶など、排ガス

規制強化を先取りした環境配慮型の新たな船型開発や洋上風力発電関連事業の拡大等に取り組まれており、こうした造船技術は、本府の高度なものづくり産業を支える柱の一つであり、造船技術を生かした新事業の展開等について、本府として積極的に支援すべきと考えるがどうか。

**【商工労働観光部長答弁】** 造船技術を活かした新事業展開への支援について、造船業は、海上輸送に使用する高性能・高品質な船舶を海運業に対し安定的に供給するとともに、裾野が広い産業であり、舞鶴市の基幹産業として長きにわたり地域の経済・雇用を支えてきました。

しかしながら、ジャパンマリンユナイテッド舞鶴事業所の商船事業からの撤退や、コロナ禍による需要低迷などにより、舞鶴の造船産業は深刻な影響を受けています。

舞鶴に集積する造船関連企業は、大型加工技術や自動運航技術など高度で特徴ある造船技術を有するとともに、港湾インフラを最大限に活用できる立地条件にあります。舞鶴の事業者が、こうした強みを活かして新たな事業への展開を図ることが地域経済の持続的な発展のために極めて重要であり、京都府としても、造船技術の継承・活用に向け積極的に支援を行っていきます。

例えば、再生可能エネルギーの主役として期待される浮体式洋上風力発電は、舞鶴の持つ造船技術を生かせる新分野であることから、舞鶴市とともに、ジャパンマリンユナイテッドに対して浮体式洋上風力発電の海洋建造物の建造等の新事業展開を求めてきたところであり、引き続き粘り強く提案していきます。

また、北部産業創造センターにおける、造船技術を環境ビジネス等に転換するための技術指導や、デジタル化による生産性向上等を進めるための人材育成、さらに京都産業21による受発注マッチングや専門家派遣などの事業者支援を継続して行っており、造船関連企業の新事業展開や、新たな取引先の開拓につながる事例も出てきています。

引き続き、舞鶴市や舞鶴商工会議所と連携して技術、経営両面での支援を進め、100年以上の歴史を有する舞鶴の造船関連技術や人材を生かした次世代を牽引する新産業の創出を図っていきます。

### 池田まさよし事務所 ご案内

#### 西事務所

(舞鶴市南田辺71番地1)



TEL(0773) 77-1722 オープン時間  
FAX(0773) 77-1723 10:00~16:00

#### 東事務所

(舞鶴市森本町29-5)



TEL(0773) 77-5670 オープン時間  
FAX(0773) 77-5671 10:00~16:00

✉m.ikeda@kyotofugikai.jp

お気軽に  
お立ち寄り  
下さい



京都府の  
ホームページも  
ご覧いただけます

市民の皆様からのご意見・ご質問も受け付けております。